

主なニュース

- 28面 <新宿区議選・現職6名が落選> ジェンダー、女性、若手候補が上位を席巻
- 46面 東高新宿・観光・おもてなしを世界へ
- 67面 歌舞伎町・劇場都市を世界へアピール
- 8面 渋谷・豊島区長選は現職が任務

週刊

新宿新聞

THE SHINJUKU SHINBUN

購読料6ヵ月4,000円、毎月5の日発行、創刊65周年 電話3369-6195 FAX3369-0759 (昭和32年12月4日第3種郵便物認可)

発行所 新宿区新聞社 編集・発行人 喜田 勇 新宿区西新宿1-1-25 ワコレー新館2ビル



トップ当選しても万歳三喝せず/吉住栄郎氏(中央)

新宿区議選

史上初 500票台で当選 批判を警戒、万歳三喝せず 新宿区議選の投票当日(21日)、午後1時30分(最終5千5百11票)と

なり、トップを確定させたのが、自民党の吉住栄郎氏だ。これは前回選挙で記録した区議選史上最多得票(最終5千5百11票)と

33歳の若さで第3位 美智雄の孫で、33歳の若さを受け、さらに「落合は坂道の多い街。コミニティバス、乗合バス



当選で笑みをこぼす渡辺美智雄氏(左)

の表証実験など、様々な取り組みを念頭にしながら課題解決を考えたい」と街の課題を取り上げる姿が、保守系無党派層の支持を広く集めた。前回の深沢地盤で戦ったが、深沢票千2百13を千7百88票も上回った。渡辺氏は

ダイヤゲートは残り1ヶ月前、池袋駅南口では今年2月末、20階建てダイヤゲート建設が竣工した。同ビルは4、18階までがオフィスフロアとなるが3ヶ月前時点で、11階の1フロアを除き、埋まった。昨年からは、3、4千坪強

24フロアのうち半分程度が埋まっている。新築超高層オフィスビルのテナントが埋まる一方、既存超高層ビルのサンシャイン(60)は、都心・臨海部の新築ビルにターゲットとされたことで、テナントの流出が続き、

李小牧(15年、日本に帰化)は今回38票で、前回に続き落選した。外国出身者を受け入れる素地は、新宿にはまだ育っていない。江戸川区ではイシノ出身区議(41歳)が誕生している。今回の新宿区議選が今日の世相を映し出したことは間違いない。この選挙結果が、7月の参院選に、どう反映されるか注目したい。

「コモレ四谷」早くも満室へ

新宿、渋谷の空室率



竣工前に満室稼働を決めたコモレ四谷(中央)

大手企業のテナント集約化の動きを受け、新宿・渋谷の大型オフィスビルの入居率はいずれも高稼働だ。四谷駅前再開発の31階オフィスビル(コモレ四谷)は来年1月竣工する。それが竣工10ヵ月前にはLINE、朝日生命などの入居を決め、満室稼働となった。

コモレ四谷

LINE・朝日生命など入居 都防災建センターが2フロア

西新宿小滝橋

五輪が開催される2020年の完成をめざし建設中なコモレ四谷駅前再開発(コモレ四谷)だ。オフィス5棟の超高層ビルが竣工は2020年1月に完成。330階までの28フロア(基準階床面積640坪)が竣工するが、こもろフロアとなる。1つ企業フロアとなる。1つ企業フロアとなる。1つ企業フロアとなる。1つ企業フロアとなる。

副都心地域の超高層ビル

ビル名	概要	募集賃料(月坪)
新宿フロントタワー	満室	2.7~2.8万円
ファーストウエスト	満室	3.0万円前後
エルタワー	空室約80坪	3.5万円前後
日土地西新宿	満室	2.6万円前後
新宿NSビル	空室約60坪	3万円前半
新宿三井ビル	満室	3.4~3.5万円
西新宿三井ビル	満室	2.4~2.5万円
新宿野村ビル	満室	3.3~3.5万円
小田急第一生命ビル	空室約50坪	2.5~2.7万円
アイランドタワー	満室	3.0万円前後
パークタワー	400坪	2.6万円前後
イーストサイドスクエア	空室約3,600坪	2.8万円前後
サンシャイン60	空室3,000~4,000坪強	2.5万円前後
渋谷ヒカリエ	満室	約5万円
渋谷クロスタワー	満室	3万円前半
渋谷マークシティ	満室	4.0万円強
セルリアンタワー	満室	4万円弱

※4月時点・本紙調査

副都心地域の超高層ビル 西新宿小滝橋通り12階ビルは残り1フロア 西新宿小滝橋通り12階ビルは残り1フロア。西新宿小滝橋通り12階ビルは残り1フロア。西新宿小滝橋通り12階ビルは残り1フロア。

この新築ビルは3割と低迷していた。その後は大企業のアパレルの集約化ニーズを受け、徐々に入居率を向上させている。15年後半からは満室稼働の状態が続いていた。近藤泰津子らが、ベスト10に入り、その流れを顕著にした。しかも、この波は男性票にも影響を及ぼした。若く清新さが売りの吉住栄郎、渡辺美智雄らには、多くの女性票が投じられたと見られる。一方で保守、革新を問わず、オッサン組は、ことごとく票を減らし、落選した現職も▼トランジェンダーの闘いとして注目されたダイバーシティの波はどうか。依田花恵(無所属)は約3千票で4位当選、高月真名(共産党)は約2千票で14位当選。この2人だけで得票数は5千票に上った▼もう一つは、国際化の波。中国出身の李小牧(15年、日本に帰化)は今回38票で、前回に続き落選した。外国出身者を受け入れる素地は、新宿にはまだ育っていない。江戸川区ではイシノ出身区議(41歳)が誕生している。今回の新宿区議選が今日の世相を映し出したことは間違いない。この選挙結果が、7月の参院選に、どう反映されるか注目したい。

秒読み

▼政壇地盤を越えた新しいウエーブが今回の新宿区議選に起こった。反・性差別に象徴されるダイバーシティの波、そして、国際化の波。さらに女性の社会進出の波。大きい。前回の選挙から兆しはあったが、今回は